

市民のアトリエ

デッサン教室作品展

親愛なる「はくぶつかん」読者のみなさまへ

「一年間で、こんなに？」

デッサン教室の方々の作品を見せていただいた、正直な感想です。

見たことのないものに触れるという体験には、楽しみです。

それを得るには、たとえばどこかへ旅行するという方法があります。

いつもとは違う場所へ。

ところが、目的地だけを周囲から切り離して獲得できる最近では、旅行で得られるものも、実は潜在的に先まわりして用意されたものになってしまいがちです。

いつもとは違う場所へ。

りんご、見たこと、ありますか。あります！

みかんは知っていますか。知っています！

ほんとうに？

りんごも、みかんも、初めて見た！と僕は思ってしまいました。とにかく、この作品展をご覧になってみて下さい。

会期： 4月14日（土） → 28日（土）

会場等については中ページをごらん下さい

4月の行事

1	日	(休館日)(市制記念日)
2	月	(休館日)
3	火	博物館実務実習生の受け入れ
4	水	プラネタリウム
5	木	プラネタリウム
6	金	
7	土	プラネタリウム
8	日	プラネタリウム 地層観察会
9	月	(休館日)
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	特別展「デッサン教室作品展」 プラネタリウム 土曜観察会
15	日	プラネタリウム
16	月	(休館日)
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	プラネタリウム
22	日	「緑の国勢調査」打合せ プラネタリウム 地層観察会
23	月	(休館日)
24	火	「緑の国勢調査」打合せ
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	プラネタリウム 土曜観察会
29	日	(休館日)(天皇誕生日)
30	月	(休館日)

★☆行事案内☆★

●市民のアトリエ第8回デッサン教室作品展

昭和58年度参加会員の皆さんの力作30点をご紹介します。

会期 昭和59年4月14日(土)～4月28日(土)まで

会場 特別展示室

作品 鉛筆デッサン・水彩画およそ30点

入場 無料

●体験学習「土器をつくろう」

上ノ入B遺跡から出土した縄文土器中期の作品を、あなたがつくってみませんか。

日時 5月16～18日 10時～16時

場所 博物館科学教室

対象 一般・ただし三日間連続して出席可能なかた。

申し込み 往復はがきに、住所・年令・氏名を明記して5月8日(必着)までに博物館へお申し込み下さい。

多数の場合は抽選により決定します。

●自然観察会「鷹取山の自然を訪ねて」

大磯町鷹取山周辺で雑木林の昆虫や地層を観察します。

日時 5月13日(日)9時～16時

(雨天中止)

申し込み 参加希望の方は往復はがきで4月末日までに博物館へお申し込み下さい。



●星を見る会「春の星座と惑星」

博物館の望遠鏡で、土星と火星を観望します。

日時 5月25日(金)18時～20時

場所 博物館科学教室

参加自由、当日博物館科学教室に直接お集まり下さい。

プラネタリウム4月のテーマは「10万年後の星空」です。

★年間参加者を募集します★

●デッサン教室

造形美術の表現の基礎的訓練としてデッサンを行います。観察力・表現力を身につけましょう。

日時 59年5月から60年3月まで、毎月第

2木・金曜日の10時～16時30分

対象 一年間連続して出席できる成人一般

申し込み 往復はがきに、年令・職業・電話番号

を明記し、4月末日までに博物館へ。定員

40名を超えた場合は抽選により決定させ

ていただきます。

●古文書講読会

村に残る江戸時代の文書を読み、地域の歴史を学びながら、歴史に親しむ。

日時 第1、3土曜日 14時～16時

対象 高校生以上・一般 (30名)

申し込み 往復はがきに、年令・職業・電話番号

を明記し、4月末日までに博物館へ、

多数の場合は抽選により決定します。

●石仏を調べる会

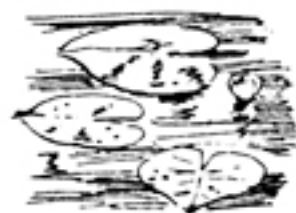
市内の石造物を調査する会です。

日時 原則として毎月第2、4土曜日の14時～

16時。5月12日より60年3月まで。

申し込み 往復はがきで申し込んで下さい。5月

2日がしめきり(必着)。募集定員は15名。



●地層観察会

「海の石、川の石」をテーマに、毎月1回(日曜日)の野外観察と隔月に1回(日曜日)館内でまとめの会を行います。

内容 相模川、金目川、酒匂川および国府津～平塚海岸の石の観察。

対象 中学生以上

申し込み 参加希望者は、60円切手を同封して、博物館までお申し込み下さい。案内書をお送りします。

プラネタリウムの投影時刻等が 変わりました

●新しい投影開始時刻

第1回 第2回

土曜日 14:00 15:30

日曜日 11:00 14:00

水・木曜日は団体・学校専用。

火曜日は学校専用

きっぷは、第1回、第2回とも朝9時より発売しています。



今年度のテーマ

4月 10万年後の星空

5月 火星が近づく

6月 銀河中心

7月 水中都市

8月 ↓

9月 アルマゲスト

10月 ↓

11月 中国の星座

12月 ↓

1月 ハレー彗星 Part III

2月 ↓

3月 太陽の顔いろいろ

平塚の年中行事

花御堂と誕生仏 (大乗院)

4 灌仏会

今月も花にちなむ民俗を紹介します。今年は3月中旬にも雪が降り、桜、ツツジなどの花は遅れそうですが、例年なら春の花が満開となる頃、4月8日には各寺院で灌仏会(かんぶつえ)が行われます。仏教行事の1つで、お寺では境内、本堂などに花御堂(はなみどう)といって、ツツジの花等で飾った小堂を設け、その中に浴仏盆(よくぶつぼん)とよぶ水盤を置いて、上に釈迦誕生仏を安置します。そして花御堂の脇には甘茶を置いて、参詣者が甘茶を柄杓で誕生仏の頭上から注ぐという行事です。写真は土屋の大乗院の灌仏会の花御堂と誕生仏で、ここでは小堂を花で飾る代りに、花瓶に花をさして脇に置いてあります。多少略された形となっているわけですが、こうした形でも灌仏会を行ってお寺は、今では少なくなっています。

甘茶は、文字通り少し甘味のあるお茶で、言葉ではうまくいいあわせない味をもっています。強いてたとえれば、甘味をつけた麦茶に似た薬湯という感じのものです。甘茶は誕生仏にかけるだけでなく、参詣者はこれを頂いて飲み、さらにたとえば神田や城島地区では甘茶は眼につけると眼病に効くとか、豊田地区ではお寺からもらってきた甘茶で墨をすり、「千早振る 卯月八日は吉日よ 神下げ虫を成敗する」と書いて門口に貼っておくと悪い虫が家に入らないという伝承もあります。つまり、単なる飲物ではなく、何らかの力をもった水と考えられているわけです。

灌仏会の頃は、道端や田の畔などにヨモギがたくさん生えており、各家ではヨモギを入れた草の花団子をつくり、重箱などに詰めてお寺へ持って行ったりもしています。

灌仏会は誕生仏を出すことからわかるように釈迦の誕生日といわれる4月8日に、その降誕を祝う行事で、花御堂は摩耶夫人(まやぶにん)が



藍長尼園(らんびにおん)の無憂樹の下で釈迦を生んだという伝説の藍長尼園をかたどったものです。甘茶は、生まれた釈迦に9つの龍が天から清らかな水を吐き注いで産湯にしたという伝説に基づくもので、灌仏会の名はこのことがもとになっています。

灌仏会の行事で考えておかなければいけないことが1つあります。それは、先に記した豊田地区では甘茶で墨をすり、紙に「千早振る 卯月八日は吉日よ、神下げ虫を成敗するぞ」と書いて貼るという文面のことです。ここにある「卯月八日」は4月8日のことなのですが、一方では日本の年中行事の中には、この日には山から花を摘んできて竹竿の先につけて庭先に立てたり、あるいはこの日には山へ登って飲食をする習しがあります。このことは先回の「花見」でも多少触れました。竿の先に付ける花は「八日花」といい、竿はできるだけ高くたてるという所もあります。山へ登ったり、花を高くかけたりすることは、民俗学からいえば高所から神を迎えてくることをあらわしているわけで、豊田地区の呪文にある「神下げ」というのはこのことをいっていると考えられます。また、灌仏会の花御堂の花は、本来は八日花と同じ意味をもっていたのが釈迦誕生伝説と結びついて仏教行事になっていったのかもしれませんが。

(学芸員・小川直之)